



### 学校教育目標：心豊かで自ら学びたくましく生きる子どもの育成

この学校便りの前号で「甘え（甘えさせること）」と「甘やかし（甘やかすこと）」に関して書きました。以前、東北地方のある方が次のような詩をつくられたそうです。有名な宮沢賢治の「雨ニモマケズ」のパロディだそうです。



現代っ子版 雨ニモマケズ

雨にもあてず 風にもあてず  
雪にも 夏の暑くにもあてず  
ぶよぶよの体にて たんさん着込み  
意欲もなく 体力もなく  
いつもぶつぶつ 不満を言っている  
毎日塾に追われ ティンティン吸い付いて遊ばず  
朝からあぐべをし 集会があれば貧血を起して  
あらぬことを 自分のためだけ考えてかえりみず  
作業はぐあぐあず 注意散漫し ぐわん飽ん  
そつぱな家 親の部屋に閉じこもって  
りっぱな家の 自分の部屋に閉じこもって  
東に病人あれば 医者が悪いと言いつ  
西に疲れた母あれば 養老院に行けと言いつ  
南に死にそうな人あれば 寿命だと言いつ  
北にけんかや訴訟があれば 眺めてかわらさず  
日照りの時は 冷房をつけ  
みんなに勉強勉強と言われ  
叱られませず 怖いものも知らず  
こんな現代っ子に誰がした



かなり辛辣です。全てが当てはまってしまうような子どもがいたら大変ですし、そんな子どもにはしたくありません。でも、部分的ならあてはまる子どもがいることも事実でしょう。

この詩の中のように、大人に甘やかされ過保護なまでに守られて育つ子ども。子ども自身に考えさせたり、判断させたり、行動させたりする前に、大人が先回り、先回りして、子どもが直面し自分の力で乗り越えるべき多様な障害や困難を排除してしまう。そんな大人のあまりに過剰な介入によって、たっぷり甘やかされ、今の子どもたちは、何でも思い通りになってしまっていることが多いように思います。やがて出ていく社会は、自分の思い通りにはならない事の方がはるかに多いのに・・・これでは「思い通りにならないことがある」ということを実感しないままに大人になってしまいます。

子どもの目の前に現れる多様な障害や困難を全て排除してやり、子どもが楽に前に進めるようにすることが大人がすべきことでしょうか。

「思い通りにならないこと」に直面した際に、「どうやってそれを解決していくか」、「どうやって乗り越えていくか」ということを子ども自身に、学ばせることこそ、私達大人が子どもにすべきことだと思います。

## 収穫した稲の「脱穀」をしました!!

10月19日に刈り取り、天日干しをしていた稲。本日、今回も、下亀中山間地事業の皆様にお世話頂き『脱穀』を行いました。

昨日は、雨が降り、実施が危ぶまれましたが、稲にはブルーシートをかけて雨に濡れるのを防いでくださっていた為、秋らしい好天の中で活動することができました。

稲藁の匂いが立ち込めます。思わずおいしい新米ご飯を想像してしまいました。お世話下さった皆様には20日の学習発表会の際に食べていただく予定です。下亀中山間地事業の皆様、ありがとうございました。

